

# タイ進出ラッシュ

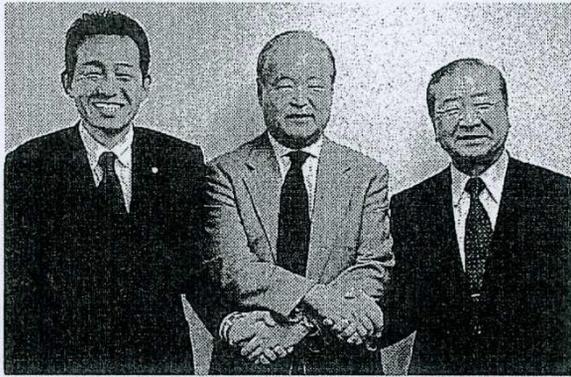
フルハーフ 日本トレクス DTHD

## 冷凍ボディー販売

### 現地生産で需要対応

トラック架装メーカーのタイ進出が相次いでいる。日本フルハーフ（上野晃嗣社長、神奈川県厚木市）、日本トレクス（西川柳一郎社長、愛知県豊川市）に続き、第一貨物（武藤幸規社長、山形市）を傘下を持つディー・ディー・ホールディングス（DTHD、武藤社長、東京都江東区）も現地法人を設立し、冷凍車のトラックボディーを製造・販売する。タイでは、トラック輸送や食文化の変化などから冷凍・冷蔵輸送が堅調に伸びており、各社は「現地生産」で旺盛な需要に 대응していく。

（高木明）



冷凍車のトラックボディー生産・販売で現法を設立したDTHDの武藤社長（中央）

DTHDは11月25日、ビューテック（福田太郎社長、愛知県豊田市）と共同出資で、現地法人ジャパン・ボディー・マニユファクチャリング（JBM）を10月31日付で設立した、と発表し

トラック架装メーカー

た。現法は資本金5億4千万円で、DTHDが80%、ビューテックが20%を出資。バンブー工業団地内に5千平方メートル規模のトラック架装工場を立ち上げ、2015年4月から製造・販売を開始する。

JBMは最新の生産設備を導入するとともに、札幌

一方、今年7月から本格的に事業開始したのが日本フルハーフだ。現地のトラック車体製造・販売大手のマハジャックに資本参加するとともに新会社を設立、体制を整えた。フルハーフでは「マハジャックの冷凍車の製造技術は、国内トップクラスを誇る。両社が手を組むことで、タイのロードチェーン輸送の発展を加速させたい」（営業推進部）と話している。

極東開発工業の子会社の日本トレクスも4月に現地企業との共同出資で現法を設立。現在、来年1月から事業開始を予定しており、ウイングバンやダンブトラックを製造・販売する。中長期的に需要が見込まれる地域を中心に、海外での事業展開を強化する。

ボディー工業（堀田彰社長、札幌市西区）との業務提携により、高耐久性ボディーを提供する。また、冷凍機は最先端の電気式を採用する計画で、ビューテックの現法が日本の冷凍機メーカーの技術支援を受ける。18年には年間100両の生産を目指す。